

(円卓会議第3期・第7回趣旨文)

社会科学の発展を考える円卓会議委員 各位

第3期・第7回会議「医療・健康と社会科学」のご案内（趣旨文）

一橋大学長 中野 聡

委員各位には平素より本学に対して多大のご厚誼を賜り深く感謝申し上げます。

委員各位のご協力の下に「産官学のすべての英知を結集して日本の社会科学を発展させるための方策を構想していく場」として2018年に設置された「社会科学の発展を考える円卓会議」は、これまで2期・6回にわたり開催され、日本の社会科学の国際競争力強化に向けた課題として人材育成、研究、財政基盤とガバナンスをめぐる問題をそれぞれ検討し（第1期・第1回～第3回）、さらにこれからの時代における社会科学に求められている新しい課題としてデータサイエンスとEBPM、文理共創、社会との共創をめぐる課題を検討してきました（第2期・第4回～第6回）。そして、このたび開始する第3期では、これまでに検討されてこなかった具体的な課題を取り上げて、それらの課題をめぐって日本の社会科学が世界に伍して貢献していくためには何が必要とされているのか、人材育成と研究の拠点である大学をどのように強化していくことが社会から期待されているのかなどについて議論を深めることができると願っております。

第3期初回（通期第7回）は、「医療・健康と社会科学」をテーマとします。コロナ禍が始まって丸3年が経過しようとしている今日、世界各国の時々の対応が分かれる中で、医療・健康と社会科学が連携した取組の必要性は誰の目にも明らかとなりましたが、その成果と課題については、さまざまな議論があり得ると思います。今回の円卓会議では、コロナ禍の経験も踏まえつつ、将来に向けてより広い視野から「医療・健康と社会科学」をめぐって議論していきたいと思っております。

議論のための話題提供者としては、東京医科歯科大学から四大学連合によるポストコロナ社会コンソーシアムの取組をリードしていただいている同大学大学院医歯学総合研究科の藤原武男教授、本学からユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の実現に向けた学際・国際連携の取組を推進する経済学研究科・社会科学高等研究院の本田文子教授にお願いしました。委員各位には、忌憚のない活発な議論を展開していただければ幸いです。